

FALCRG 会合概要

1. 日時 8 February 2006、2:20~16:30 pm
2. 場所 CERN in the 6th floor conference centre
3. 出席 13 名:

Richard Wade (PPARC, Chair), Janet Seed (PPARC, Secretary), Domenec Espriu (Univ. Barcelona), Jonathan Kotcher (NSF), Paul Grannis (DOE), Olivier Napoly (CEA, France), Dongchul Son (KNU, Korea), Masakazu Yoshioka (KEK), 竹内大二 (KEK), 黒川眞一 (ILCSC Chair), Umberto Dosselli (INFN, Italy), Barry Barish (GDE Director, by telephone)

欠席 5 名:

Jean-Pierre Delahaye (CERN), Atul Gurutu (India), Jean Pieere Ruder (SBF, Switzerland), Albrecht Wagner (DESY), Michel Spiro (IN2P3, France)

4. 議事概要(本当に要点のみ)

(1) 議題1 (Minutes of the meeting held on 1 October 2005) 及び2 (Matters arising) について Common Fund から Fermilab のオーヴァーヘッド分は差し引く。Fund のシェア方式は 3 地域等分となったが RG の多数意見としてでなく 11 月 4 日の FALC にて決まったもので、その旨関係部分の議事録を修正する。

(2) 議題3 (Report from the FALC meeting held on 4 November 2005) について(省略)

(3) 議題4 (Draft MOU for the GDE Common Fund) について

- ANNEX 関係(各国負担分): アジア → 日本が半分、あとの半分は韓・中・印負担、当面、中・印の拠出を韓国が負担(事前に DS, DT, MY で打合せ済み)。
- ILC の研究開発参加機関以外の機関からの MAC メンバーの出席旅費については common fund から支弁することになった。
- Common fund の今後の執行計画について次回 RG 会合で BB が報告することになった。

(4) 議題 5 (Progress from the GDE (Barry 電話、資料は後ほど配布される)) 及び議論

●BB 報告組織表の FALC、FALCRG の役割は現実との乖離が大。RG の任務を変えるのなら議を経るべき。FALC 小委員会で議論せよ。

●FALC より ILCSC で議論すべき。

(5) その他、次回会合予定

5. 所感(竹内、吉岡)

●GDE 所長、米国: FALC、FALCRG は財政当局を巻き込みつつ「発展」させたい、ILCSC との役割分担を明確にして (ILCSC の守備範囲を科学的部分と明確にして) いきたいとの考えが明確。

●欧州勢: 慎重な意見。

●日本: J-PARC 建設最盛期、ILC は踏み出すのに時期尚早が基本的立場。

●今後の課題:

①FALC・Mandate の見直しに RG も連動せよ。ILCSC との役割分担、協力関係が鍵。

②common fund も GDE 活動が増えるに従い、増加傾向であろう。その検討が必要。

③RG 日本メンバーとして KEK 管理局長が出ているが、今後ともそれで良いのか、本省が出るべきか。(上記②の検討の推移とも関係)

以上